

山岳スポーツセンター：遭難対策訓練

- ◆日程 2024年2月4日(日)
- ◆メンバー L: OY、IZ、SD、HN、ST、MD、OD、MT、OT、KT、TY、KT、HK、NS、TS
- ◆天候 雨

今年の訓練は下記①②の二本立てで、あいにくの天気ではあったが有意義な訓練となった。

① 一般縦走路での搬送訓練 昨年指導員資格を取得した OT さんが特別に担当してくれた。

- (1) スリングを用いた簡易ハーネス (2) ムンターヒッチによる引き下げ
- (3) ツェルト搬送…ストックを用いた場合、用いない場合
- (4) ロープと立木を用いたツェルト設営、サイドリフター
- (5) 1/3 システムによる引き上げ (デモンストレーション)

内容を厳選し、実際に手を動かし疑問を解消しつつ何度も練習ができて皆今回の習得度は高かったと思われる。また使用頻度の高いクローブヒッチを、手で輪を作る方法、カラビナに片手でかける方法、立ち木などに巻き付ける方法と繰り返し練習できた。

② 事故対応フローチャートを使った模擬訓練 (ロールプレイング)

昨年8月に「事故対応フローチャート」改訂、11月に「救助要請判断参考基準」新設、さらに「事故連絡書」改訂も進行中であり、それぞれの検証も兼ねての訓練とした。

6-7名の2パーティで順次シナリオ「雪の上州武尊山での低体温症」「畦ヶ丸での落石」に沿い、要救助者役のみ事前に役割と演技を伝えておくという方法で、なるべく本番に近い臨場感を目指した。みな想定外の事態に戸惑いつつも自身のできることを探し、フローチャートを使うことでさらに適した動きができた。

たくさんの貴重な気づきがあった。上着を着るなど自分たちの安全にも注意(=Safetyの3Sのself)。要救助者へり搬送後の自分たちの行動も考える(ビバーク?下山?)。記録は紙への記載に限定せず、吹雪など余裕がない条件下では携帯の録音機能(ボイスレコーダー)、写真など使えるものは工夫する。当該山域の各携帯会社のエリア情報を事前に調べておく。電波が繋がらず伝令を出す場合極力複数名で(伝令に事故が起きる可能性や警察からの返事・指示を現場に持ち帰る必要が生じる場合)等。実際に訓練したからこそその収穫である。

各参加者からは「一度だけでなく繰り返しの訓練が大事」との感想が多く、初めての試みではあったが手応えを感じられた。「起きないつもりなのが事故」「実際はパニックになる」「応急処置など頭から飛んでしまう」と、机上訓練ならではのメリット、フローチャートによりもれなく対応できることが実感された。また「最初の三つ、CSC(指揮命令系統、安全、通信手段)だけでも立ち上げられると、その後がスムーズ」「リーダーにすべてを委ねず、個々が意見を出しリーダーは取りまとめるくらいの意識」「全員が一度はリーダー役を経験することで各担当に動いてほしいことなど見えてくる」と、この先につながる意見も出た。

「事故の結果どうなるかは運もあるがその助かる可能性を少しでも上げていく方法を確立する、訓練がそれにつながると信じてやっていく」という力強いコメントもあった。

①②ともに「ちょこ訓練」(例会での10分ロープワーク・20分ロールプレイングなどの開催)を反復して定着を目指したい。みなさんご協力・ご参加ありがとうございました。(IZ)

